



DHCP プロキシの設定

- [DHCP プロキシの設定について, 1 ページ](#)
- [DHCP プロキシの使用に関する制限, 2 ページ](#)
- [DHCP プロキシの設定 \(GUI\) , 2 ページ](#)
- [DHCP プロキシの設定 \(CLI\) , 3 ページ](#)
- [DHCP タイムアウトの設定 \(GUI\) , 4 ページ](#)
- [DHCP タイムアウトの設定 \(CLI\) , 4 ページ](#)

DHCP プロキシの設定について

DHCP プロキシがコントローラ上で有効になっている場合は、コントローラによってクライアントから設定済みサーバへ DHCP 要求がユニキャストされます。少なくとも 1 つの DHCP サーバが、WLAN にアソシエートされたインターフェイスか WLAN 自体で設定されている必要があります。

DHCP プロキシがコントローラ上で無効になっている場合は、クライアントとの間で送受信されるそれらの DHCP パケットは、パケットの IP 部分に変更されることなくコントローラによってブリッジされます。クライアントから受信したパケットは CAPWAP トンネルから削除され、アップストリーム VLAN 上で送信されます。クライアント宛の DHCP パケットは、アップストリーム VLAN 上で受信され、802.11 に変換されて、CAPWAP トンネルを通過してクライアントに送信されます。したがって、DHCP プロキシが無効になっている場合は、内部 DHCP サーバは使用できません。DHCP プロキシを無効にする機能を利用すると、シスコのネイティブプロキシ動作モードをサポートしない DHCP サーバを使用できるようになります。既存のインフラストラクチャによって必要とされる場合のみ、無効にするようにしてください。



(注) DHCP プロキシは、デフォルトで有効になっています。

DHCP プロキシの使用に関する制限

- DHCP オプション 82 を正しく動作させるには、DHCP プロキシが有効になっている必要があります。
- 通信するすべてのコントローラの DHCP プロキシ設定は同じでなければなりません。
- DHCPv6 プロキシはサポートされません。

DHCP プロキシの設定（GUI）

-
- ステップ 1 [Controller] > [Advanced] > [DHCP] の順に選択して、[DHCP Parameters] ページを開きます。
- ステップ 2 [Enable DHCP Proxy] チェックボックスをオンにして、DHCP プロキシをグローバルで有効にします。それ以外の場合は、このチェックボックスをオフにします。デフォルト値はオンです。
- ステップ 3 [Apply] をクリックして、変更を確定します。
- ステップ 4 [Save Configuration] をクリックして、変更を保存します。
-

DHCP プロキシの設定（GUI）

-
- ステップ 1 [Controller] > [Interfaces] の順に選択します。
- ステップ 2 DHCP プロキシを設定するインターフェイスを選択します。
コントローラの管理、仮想、AP マネージャ、または動的インターフェイスに DHCP プロキシを設定できます。
[Interfaces > Edit] ページに、コントローラ上で設定されているプライマリおよびセカンダリ DHCP サーバの DHCP 情報が表示されます。プライマリおよびセカンダリ サーバが表示されない場合は、このウィンドウに表示されるテキスト ボックスに DHCP サーバの IP アドレスの値を入力する必要があります。
- ステップ 3 選択した管理インターフェイスの DHCP プロキシを有効にするには、プロキシモード ドロップダウンで次のオプションから選択します。[Global] : コントローラでグローバル DHCP プロキシ モードを使用します。[Enabled] : インターフェイスで DHCP プロキシ モードを有効にします。コントローラ上で DHCP プロキシを有効にした場合は、コントローラによってクライアントから設定済みサーバへ DHCP 要求がユニキャストされます。WLAN に関連付けられたインターフェイスまたは WLAN のいずれかに少なくとも 1 台の DHCP サーバを設定する必要があります。[Disabled] : インターフェイスで DHCP プロキシ モードを無効にします。コントローラ上で DHCP プロキシを無効にすると、クライアントとの間で送受信される DHCP パケットは、パケットの IP 部分に変更されることなくコントローラによってブリッジされます。クライアントから受信したパケットは CAPWAP トンネルから削除され、アップストリーム VLAN 上で送

信されます。クライアント宛の DHCP パケットは、アップストリーム VLAN 上で受信され、802.11 に変換されて、CAPWAP トンネルを通してクライアントに送信されます。したがって、DHCP プロキシが無効になっている場合は、内部 DHCP サーバは使用できません。

ステップ 4 ネットワーク アドレスの割り当てに DHCP が使用されている場合、[Enable DHCP option 82] チェックボックスをオンにして、追加のセキュリティを確保します。

ステップ 5 [Apply] をクリックして、設定を保存します

DHCP プロキシの設定 (CLI)

ステップ 1 次のコマンドを入力して、DHCP プロキシを有効または無効にします。

config dhcp proxy {enable | disable}

ステップ 2 次のコマンドを入力して、DHCP プロキシの設定を表示します。

show dhcp proxy

以下に類似した情報が表示されます。

```
DHCP Proxy Behavior: enabled
```

DHCP プロキシの設定 (CLI)

ステップ 1 インターフェイスで DHCP のプライマリおよびセカンダリ サーバを設定します。これを設定するには、次のコマンドを入力します。

- **config interface dhcp management primary primary-server**
- **config interface dhcp dynamic-interface interface-name primary primary-s**

ステップ 2 コントローラの管理インターフェイスまたは動的インターフェイスで DHCP プロキシを設定します。これを設定するには、次のコマンドを入力します。

- **config interface dhcp management proxy-mode enableglobaldisable**
- **config interface dhcp dynamic-interface interface-name proxy-mode enableglobaldisable.**

(注) DHCP が設定されている場合に追加のセキュリティを確保するには、**config interface dhcpinterface typeoption-82 enable** コマンドを使用します。

ステップ 3 **save config** コマンドを入力します。

ステップ 4 コントローラインターフェイスのプロキシ設定を表示するには、**show dhcp proxy** コマンドを入力します。

DHCP タイムアウトの設定 (GUI)

ステップ 1 [Controller] > [Advanced] > [DHCP] の順に選択して、[DHCP Parameters] ページを開きます。

ステップ 2 [DHCP Timeout (5 - 120 seconds)] チェックボックスをオンにして、DHCP タイムアウトをグローバルで有効にします。それ以外の場合は、このチェックボックスをオフにします。有効な範囲は 5 ～ 120 秒です。

ステップ 3 [Apply] をクリックして、変更を確定します。

ステップ 4 [Save Configuration] をクリックして、変更を保存します。

DHCP タイムアウトの設定 (CLI)

DHCP タイムアウトを設定するには、次のコマンドを入力します。

config dhcp timeout seconds